



©K.Miura

指揮

大井 剛史

演奏

セントラル愛知交響楽団
金城学院大学文学部
音楽芸術学科 管楽器専攻生

吹奏楽の 響き

in HANDA

第1部

2019年度全日本吹奏楽コンクール課題曲I～V
I 「あんたがたどこさ」の主題による幻想曲
II マーチ「エイプリル・リーフ」
III 行進曲「春」
IV 行進曲「道標の先に」
V ビスマス・サイケデリア I

第2部

春の猟犬
世界のマーチ
国民の象徴(アメリカ)
ブルー・インパルス(日本)
ドラゴンクエストによるコンサート・セレクション



吹奏楽の響き in HANDA 2018.5.20

2019年6月9日(日) 半田市福祉文化会館(雁宿ホール)大ホール

[開演]15:00 [開場]14:15 入場無料 / 全自由席 事前整理券配付

[整理券取扱い] 雁宿ホール、半田市立図書館、亀崎図書館、アイプラザ半田

[整理券配付] 2019年4月19日(金)9:00～(お一人様5枚まで)

吹奏楽の響き

in HANDA



指揮 / 大井 剛史

1974年生まれ。17歳より指揮法を松尾葉子氏に師事。東京藝術大学指揮科を卒業後、1999年同大学院指揮専攻修了。若杉弘、岩城宏之の各氏に指導を受ける。1996年安宅賞受賞。スイス、イタリア各地の夏期講習会においてレヴァイン、マズア、ジェルメッティ、クラブチェフスキーの各氏に指導を受ける。2000年～2001年、仙台フィルハーモニー管弦楽団副指揮者。2007年～2009年、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団にて研修。2008年アントニオ・ペドロッチ国際指揮者コンクールで第2位入賞。2009～2016年ニューフィルハーモニーオーケストラ千葉(現・千葉交響楽団)常任指揮者、2009～2013年山形交響楽団指揮者、2013～2017年同正指揮者を歴任。現在、東京佼成ウインドオーケストラ正指揮者。このほかほとんどの国内主要オーケストラを指揮し、多彩なレパートリーとその誠実な指揮でいずれも高い評価を得ている。

オペラの分野では、在学中より新国立劇場、東京二期会などのオペラ公演で副指揮者を務め、2002年「ペレアスとメリザンド」(ドビュッシー)を指揮しデビュー、以降多くのオペラ作品を指揮するほか、ミュージカル「ウエスト・サイド・ストーリー」(バーンスタイン)も指揮。バレエの分野では「ロメオとジュリエット」(プロコフィエフ)などで新国立劇場バレエ団の公演を度々指揮、国内を代表するバレエ団やダンサーが一堂に会した「NHK バレエの饗宴」でも指揮を務めた。さらに、小松原庸子スペイン舞踊団や、野村萬斎、花柳壽輔、井上八千代といった日本舞踊界の名手たちと共演するなど、幅広い舞台芸術分野で活躍している。東京藝術大学音楽学部器楽科非常勤講師(吹奏楽)。尚美ミュージックカレッジ専門学校客員教授。



セントラル愛知交響楽団

1983年ナゴヤシティ管弦楽団として発足。岩倉市の事業補助を受け1997年に現名称に改名の後、2009年4月一般社団法人となる。2019年4月、5年間にわたり音楽監督を務めたレオシュ・スワロフスキーは名誉音楽監督に、新たに常任指揮者として名古屋出身の俊英 角田鋼亮が就任。定期演奏会、コンチェルトシリーズ、「第九」演奏会等の自主公演の他、バレエ、オペラ、ミュージカル等の依頼公演にも数多く出演。独自の構成によるプログラム、幅広いレパートリーを生かした学校公演、演奏者と聴衆の距離を縮めるような室内楽公演にも積極的に取り組み、年間約100回の公演はいずれも好評を博す。また2015年半田市と音楽文化振興の協定を締結し、以降さまざまな事業を展開。海外では2007年中国内蒙古自治区、2009年タイ・バンコク(文化庁国際交流支援事業)、2017年韓国・釜山(釜山マル国際音楽祭)で公演し成功を収める。1996年「平成7年度愛知県芸術文化選奨文化賞」、2005年「平成16年度名古屋市芸術奨励賞」受賞。



金城学院大学 文学部 音楽芸術学科

2002年金城学院大学に初の芸術系学科となる芸術表現療法学科を開設。その流れを汲み2013年に設置された音楽芸術学科はピアノ・声楽・管楽器の3コースからなり、それぞれが目指す目標に合わせた実践的な教育が行われている。

2011年セントラル愛知交響楽団との間に包括協定を締結、また2013年4月には守山区、公益財団法人名古屋市文化振興事業団(守山文化小劇場)との間に文化・芸術に係るまちづくり連携協定を結び、音楽を通じて地域社会の発展に寄与するべく、学科をあげて様々な取り組みを続けている。

プロテスタント・キリスト教精神に基づいた女子高等教育機関として教育理念に「主を畏れることは知恵の初め」(旧約聖書「箴言」第1章7節)を掲げ、豊かな人間性と深い専門的学識をバランスよく兼ね備えた人材を世の中に送り出すことを目的としている。